令和２年度事業報告書

（令和2年3月1日～令和3年2月28日）

2019年度の事業報告が記載されていますので、赤字で2020年度の実績に修正して、ファイル名に研究懇談会名を入れて返送下さい。

［研究懇談会］

　研究懇談会活動を次のように行った。

　①有機微量分析研究懇談会

　　【委員長：桝飛雄真（千葉大学），委員11名，会員数177名（個人会員171名，顧問6名）】委員会を2回。第86回有機微量分析研究懇談会，第110回計測自動制御学会力学量計測部会，第36回合同シンポジウムを6月13日・14日，京都府京都市（京都大学大学院薬学研究科）で開催（計測自動制御学会力学量計測部会と共催，日本分析化学会，日本化学会，日本薬学会協賛）し，特別講演3件，口頭発表16件，ポスター発表23件，その他各委員会報告および技術研修会を行った。講演会（第68年会9月11日，千葉大学西千葉キャンパス，招待講演1件），第16回ミクロ電子天びん技術研修会（9月2日，京都大学大学院薬学研究科）および第17回ミクロ電子天びん技術研修会（1月24日，理化学研究所）を開催したほか，会報21号を発行（2月）した。

　②ガスクロマトグラフィー研究懇談会

　　【委員長：佐藤　博（長崎国際大学），運営委員会委員55名，会員数89名（個人会員44名，団体会員45機関，名誉会員13名）】運営委員会を6回開催した。研究会開催数：8回（第364回～371回，特別講演会，JAIMAコンファレンスの講習会（GC編とセパレーションサイエンス編））開催，分析化学年会での講演会を含む）。また第25回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会（8月7日～9日，麻布大学）を開催した。本部主催の日中韓シンポジウム2019（慶熙大学校国際キャンパス）を開催支援した。奈良文化財研究所（364回）と東京都健康安全研究センター（366回）の2回の見学会を行った。更に，書籍「役に立つGC分析」を改訂して，「ガスクロ・ガスマス自由自在」として出版する準備を進めた。

　③高分子分析研究懇談会

　　【委員長：石田康行（中部大学），運営委員会委員14名，会員数162名（個人会員60名，法人会員102社）】開催数：例会4回（第397回～400回，第398回は1泊2日の夏期合宿として開催，また当初予定していた第401回はコロナ禍のために延期）。さらに第68年会において研究懇談会講演（9月12日，千葉大学），第59回・第60回高分子分析技術講習会（明治大学駿河台校舎），第24回高分子分析討論会（10月24日・25日，つくば国際会議場）をそれぞれ開催した。

　④X線分析研究懇談会

　　【委員長：辻　幸一（大阪市立大学），運営委員28名，参与9名，会員数141名（個人会員123名，団体会員18社）】開催数：例会4回（第267回・270回），運営委員会2回。「X線分析の進歩」第50集をアグネ技術センターより出版したほか，第55回X線分析討論会（10月30日・31日，コラッセふくしま，参加者116名）を主催した。第14回浅田榮一賞を阿部善也氏（東京理科大学）に授与し，X線分析討論会において2件の学生賞を選考し授与した。

　⑤分析試薬研究懇談会

　　【委員長：片山佳樹（九州大学），運営委員会委員17名，参与委員15名，会員数103名（個人会員100名，賛助会員3名）】開催数：1回。第68年会において，分析試薬研究懇談会（9月13日,千葉大学,講演2件）を開催した。また第17回ホスト・ゲスト化学シンポジウム（筑波大学）の共催を行った。

　⑥溶液界面研究懇談会

　　【委員長：塚原　聡（大阪大学），運営委員10名，個人会員104名】開催数：1回。千葉大学で開催された第68年会の「界面・微粒子」セッションの中で2件の講演（9月12日）を行った。

　⑦液体クロマトグラフィー研究懇談会

　　【委員長：中村　洋（東京理科大学），役員会役員の数：40名，会員数：210（個人会委員：151名，団体会員：59社）】開催数：12回（第333回・344回）。また第24回特別講演会・見学会（7月19日，富士電機機器制御），第25回特別講演会・見学会（2月13日，黄桜・伏見蔵），LC- & LC/MS-DAYs 2019（11月25日・26日，マホロバ・マインズ三浦），第25回LC & LC/MSテクノプラザ（2020年1月21日・22日，横浜情報文化センター），運営委員会総会I（5月21日・22日），運営委員会総会II（2020年2月19日・20日）及び創立45周年記念式典・講演会・祝賀会（12月3日，味の素）を開催し，創立45周年記念出版「日本におけるHPLC，LC/MS発展の歴史」を刊行した。このほか関東支部主催第59回機器分析講習会の第2コース「高速液体クロマトグラフィーの基礎と実践」（10月23日～25日，慶應義塾大学薬学部），及びJAIMAセミナー「これであなたも専門家」のLC編（9月5日，幕張メッセ），「これであなたも専門家」のセパレーションサイエンス編（9月6日，幕張メッセ）を共同担当し，第15回千葉県分析化学交流会（1月24日，日本大学薬学部），第11回生涯分析談話会（5月17日，九州工業大学），第12回生涯分析談話会（9月11日，千葉大学）をそれぞれ後援した。また，「第3回LC/MS分析士三段試験解説書」（日本分析化学会）及び「第4回LC分析士初段試験解説書」（日本分析化学会）の実質的な編集・執筆を担当した。さらに，第1回分析士会特別講演会・見学会（11月8日，理化学研究所横浜キャンパス）を後援した。

　⑧化学センサー研究懇談会

　　【委員長：久本秀明（大阪府立大学），会員数45名（個人会員45名）】会員名簿の更新を行った。第68年会において化学センサー研究懇談会講演を行った（9月13日，千葉大学西千葉キャンパス）。東北大学の西澤精一先生に講演をお願いし，「三重鎖核酸形成に基づくRNAセンシング：ペプチド核酸と有機小分子の活用」を拝聴した。多くの参加者があり，議論も盛況であった。その後，研究懇談会会議を実施し，賞の推薦案件等を審議した。また，今後の活動について意見交換を行った。

　⑨電気泳動分析研究懇談会

　　【委員長：江坂幸宏（岐阜薬科大学），顧問7名，常任委員13名，委員37名】第39回キャピラリー電気泳動シンポジウム（SCE2019，11月，埼玉）を主催した。また電気泳動分析懇談会賞（寺部茂賞）の表彰を行った。第6回寺部茂賞は岐阜薬科大学江坂幸宏准教授に授与された。

　⑩イオンクロマトグラフィー研究懇談会

　　【委員長：森　勝伸（高知大学理工学部），運営委員会委員24名，会員数83名（個人会員75名，維持会員7社，団体会員1社）】IC講習会（9月4日～6日，JAIMA セミナー10「これであなたも専門家-IC編」，JAIMAセミナー11「これであなたも専門家-セパレーションサイエンス編」，幕張メッセ）を行った。セミナー参加者約2万人の内，ICセミナー参加者85名。CJK2018（10月11日～14日，Kyung Hee University （Global Campus）, Yongin, Koreaおよび2019APIA:Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis（11月6日～9日，KRISS, Deajeon, Korea）の実施に協力した。第36回イオンクロマトグラフィー討論会（東工大キャンパス・イノベーションセンター東京，参加者67名）を開催した。運営委員会を2回（9月12日，千葉大学西千葉キャンパス千葉ヨウ素資源イノベーションセンターおよび12月13日，東工大キャンパス・イノベーションセンター東京）開催した。認証専門委員会を2回（6月28日および2020年1月31日）開催した。IC分析士初段試験の実施及び認定に協力した。分析化学特集号（日本分析化学会）の実質的な編集・執筆を担当した。

　⑪フローインジェクション分析研究懇談会

　　【委員長：手嶋紀雄（愛知工業大学），運営委員会委員49名，会員数118名（個人会員98名，賛助会員10名，特別賛助会員10社20口）】講演会を2回（FIA講演会（10月11日，愛知工業大学），年会会期中（9月11日，千葉大学）），を開催したほか，Journal of Flow Injection Analysis誌の発行（36巻1，2号）及びそのための編集委員会を2回（5月19日，北九州国際会議場と10月11日，愛知工業大学），また褒賞委員会を1回（年会会期中，9月12日，千葉大学）開催した。CJK symposium on analytical science 2019（10月11日～14日，慶煕大学校国際キャンパス）をGC，LC，FIA，環境分析各研究懇談会と協力支援した。

　⑫環境分析研究懇談会

　　【委員長：梅村知也（東京薬科大学），委員8名，顧問7名，会員数81名（個人会員78名，グループ会員3名）】第36回講演会を年会会期中（9月12日，千葉大学）に開催（埼玉県環境科学国際センター堀井勇一氏の分析化学論文賞受賞講演）するとともに，運営委員会を開催した。また，第32回環境工学連合講演会（5月21日，日本学術会議講堂）に演者を推薦したほか，懇談会ホームページやメーリングリストを介して，会員各位に環境関連の情報を適宜提供した。

　⑬表示・起源分析技術研究懇談会

　　【委員長：安井明美（（国研）農業・食品産業技術総合研究機構），運営委員会委員16名，参与3名，個人会員45名，団体会員15社】3月17日に第23回講演会が予定されていたが、コロナウィルス感染拡大の影響により、延期されることとなった。運営委員会はメール会議にて6月に1回開催し、オンラインによる講演会開催の可能性などについて検討し、十分な準備が可能になるまで延期することとなった。

　⑭レアメタル分析研究懇談会

　　【委員長：小熊幸一（元千葉大学），運営委員会委員：11名，会員数：20名（個人会員のみ）】9月13日に運営委員会及び講演会を第68年会会場（千葉大学）にて開催した。

　⑮熱分析研究懇談会

　　【委員長：西本右子（神奈川大学），運営委員会委員4名，個人会員20名，団体会員8社】講演会を1回（9月12日に第68年会会場において）開催した。第3回熱分析討論会（6月28日，つくば国際会議場）開催，同日午前にチュートリアル開催。

　⑯溶液反応化学研究懇談会

　　【委員長：梅林泰宏（新潟大学），運営委員会委員18名，会員数18名（個人会員18名，賛助会員0名】講演会ならびに運営委員会を9月12日の分析化学会第68年会（千葉大学）で開催した。

　⑰受託分析研究懇談会

　　【委員長：中田邦彦，運営委員会委員14名，会員数20名（個人会員16名，賛助会員0名，法人5口）】例会（技術情報交換会および運営委員会）を2回開催し，今後の運営について議論した。

　⑱電気分析化学研究懇談会

　　【委員長：前田耕治（京都工芸繊維大学），運営委員会委員25名，顧問3名】5月に北九州市で開催された第79回分析化学討論会において，本懇談会運営委員の三林浩二先生をオーガナイザーとして，討論主題「医療・環境のための超微少量バイオ/化学センシング」のセッションを2日間にわたって主催し，依頼講演4件，一般講演11件の口頭発表が行われた。また，9月に千葉市で開催された第68年会では，1日目に，懇談会主催で栄長泰明先生によるダイヤモンド電極による電気化学計測に関する依頼講演を実施し，活発な質疑が行われた。また，同年会会期中に運営委員会を開催し，今後の運営について議論した。

　⑲ナノ・マイクロ化学分析研究懇談会

　　【委員長：渡慶次学（北海道大学），副委員長：火原彰秀（東北大学），会員数：約30名（個人会員のみ）】9月5日～7日に開催されたJASIS（幕張メッセ）でのRSC Tokyo International Conference 2019に協力した。9月11日に運営委員会，9月13日に講演会を第68年会会場（千葉大学）にて開催した。3月1日～5日に開催されたPittcon2020（シカゴ）でのPAI-NET Contributed Session「Immunoassay and Aptamer Assay: Instrumentation and Molecular Approach」に協力した。

　⑳バイオ分析化学研究懇談会

　　【委員長：佐藤守俊（東京大学），運営委員会委員9名，顧問2名，会員数11名（個人会員11名，賛助会員0名】第68年会会場（千葉大学）にて，9月12日に運営委員会，および，山田真澄先生をお招きして講演会を開催した。また，8月9日・10日に「第8回Chem-Bio Joint Seminar 2019」を大学セミナーハウス（東京都八王子市）にて開催した。

　㉑スクリーニング分析研究懇談会

　　【委員長：津越敬寿（産業技術総合研究所），運営委員会委員7名，会員数12名（個人会員8名，団体会員4口）】9月13日に第3回講演会（第68年会会場，千葉大学）を開催し依頼講演1件の口頭発表が行われた。また，1月24日に日立ハイテクサイエンス・東京ソリューションラボにおいて運営委員会を開催すると共に，第4回講演会『工業材料などのスクリーニング技術の最新動向』を開催し，4件の依頼講演とラボ見学が行われた。